

ビワ生育情報

千葉県
平成22年7月号

最近1年間の気象及びビワの生育状況

平成21年7月から平成22年6月までの月別の気象は表1に示した。月平均気温は平成21年12月及び22年1、2、6月を除く全ての月で平年を下回った。この1年間の平均気温は15.1で平年より0.5、生育が良好であった前年より0.8低かった。

本年産のビワの生育状況を振り返ると、平成21年の梅雨明けは7月16日で平年より4日早かったが、梅雨明け後、夏の間気温が平年より低かったため、花房の着生率は平年より低かった。花房の出蕾は「楠」では遅かったが、「大房」及び「田中」では早かった。関東に接近した台風は3個あったが、ビワ樹にはさしたる被害はなかった。冬の訪れは遅かったが、開花の進みは「大房」は5日早く、他2品種は平年と同程度であった。冬は厳しい寒さがほとんどなかったが(最低気温-3以下の日が0日)、本年は発育の進んだ幼果が多かったため、寒害の被害はわずかに見られた。春先は天候に恵まれず、果実の生育は平年よりやや遅かった。しかし、5、6月の天候は平年より日照時間が多く、気温が高かったため、果実の肥大は進み、最終的には収穫期は平年に比べ2～3日遅れた程度であった。

表1 平成21年7月～平成22年6月の気象 (暖地園芸研究所)

年	月	気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H21	7	24.0	24.3	24.7	126	188	16	126	175	206
	8	24.6	25.9	25.8	161	154	79	202	220	122
	9	21.5	23.0	22.7	87	247	190	161	146	133
	10	17.5	17.9	18.3	222	254	242	149	137	130
	11	13.0	13.2	12.8	233	153	147	109	144	130
	12	8.6	8.6	9.4	149	83	135	169	166	180
H22	1	6.6	6.1	6.7	34	97	119	149	169	121
	2	6.5	6.3	7.7	164	93	66	111	151	126
	3	9.0	9.2	9.3	211	184	174	130	154	162
	4	12.0	13.9	14.3	309	170	145	125	166	209
	5	17.1	17.8	18.5	119	178	192	201	186	165
	6	21.1	20.8	20.6	197	237	248	159	135	105
平均/計		15.1	15.6	15.9	2,012	2,038	1,753	1,791	1,949	1,789

平年：1968～2009年の平均

本年度産果実の特徴

1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が6月1日、5日、10日、「大房」が6月7日、10日、14日、「田中」が6月15、17日、22日で、平年に比べ、「楠」、「大房」では2～4日遅く、「田中」では始期は3日遅かったものの、盛期、終期は同じであった。3、4月の天候不順から一転し、5、6月は天候に恵まれたため、果実の成熟が急速に進んだ。

表2 収穫期 (暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月・日)			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	6. 1	5.30	5.24	6. 5	6. 3	5.28	6.10	6. 8	6. 1
大 房	6. 7	6. 3	5.28	6.10	6. 8	6. 2	6.14	6.12	6. 6
田 中	6.15	6.12	6. 6	6.17	6.17	6.10	6.22	6.22	6.16

平年：1983～2009年の平均

2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさは表3に示した。果重は「楠」が55g、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ82g、74gであった。「楠」及び「田中」は平年並みであり、「大房」は平年を3%程度上回った。

横径は「楠」が4.5cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.2cm、4.9cmで

あった。平年に比べ「楠」、「大房」は同程度で、「田中」はわずかに下回った。縦径は「楠」が4.6cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみると5.3cm、5.6cmであった。「楠」は平年をわずかに下回り、「大房」、「田中」はほぼ平年並であった。

果形指数は「楠」が0.97、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.98、0.89であった。「楠」は平年を上回り、「大房」は平年並であったが、「田中」は平年を下回った。「楠」は平年よりやや丸みを帯びた果形であり、「田中」は平年よりやや細長い果形であった。

本年の着花房率は平年より低く、一部では寒害の被害がみられたため、収穫量はやや少なかった。暖地園芸研究所では収穫量は平年並からやや多かった。

3. 糖度及び酸度

果実の糖度及び酸度は表3に示した。糖度は「楠」が13.1%、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ11.3%、10.7%であった。「楠」及び「大房」は平年より高かった。

酸度は「楠」が0.12、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.15、0.36で、「楠」及び「大房」は平年より低く、「田中」は平年よりも高かった。

4. 食味

果実硬度及び糖酸比は表3に示した。果実硬度は「楠」が0.59、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.62、0.63であった。いずれの品種も平年より硬かった。

糖酸比は「楠」が平年より44ポイント、「大房」が16ポイント高く、「田中」が5ポイント低かった。

3品種とも、食味は良好であった。

5. 病害虫の発生

本年はカメムシの捕獲頭数が平年並みであり、産地でのカメムシの発生量は平年並からやや多かった。クワゴマダラヒトリの食害は平年並みであった。また、そばかす、裂果、紫斑、日焼け、たんそ病等の障害果の発生は平年並であった。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	果重(g)		横径(cm)		縦径(cm)		果径指数		糖度(%)		酸度(g)		硬度(kg)		糖酸比	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
楠	暖地園研	55	53	4.5	4.5	4.6	4.8	0.97	0.95	13.1	11.8	0.12	0.19	0.59	0.53	108	64
	青木	80	82	5.2	5.4	5.2	5.4	0.99	0.99	11.2	10.3	0.14	0.16	0.60	0.58	78	66
	南無谷	78	77	5.2	5.2	5.2	5.3	0.99	0.98	10.8	10.4	0.18	0.18	0.63	0.57	60	58
大房	暖地園研	89	79	5.3	5.3	5.5	5.4	0.97	0.97	11.8	11.1	0.13	0.20	0.64	0.58	90	55
	平均	82	79	5.2	5.3	5.3	5.4	0.98	0.98	11.3	10.6	0.15	0.18	0.62	0.58	76	60
	青木	73	74	4.9	5.1	5.5	5.4	0.90	0.93	10.9	11.1	0.27	0.27	0.62	0.56	41	41
田中	南無谷	72	72	4.8	5.0	5.7	5.5	0.85	0.91	9.6	10.1	0.35	0.31	0.62	0.58	28	33
	暖地園研	77	77	5.0	5.1	5.5	5.5	0.91	0.93	11.5	11.1	0.45	0.32	0.66	0.57	25	34
	平均	74	75	4.9	5.1	5.6	5.5	0.89	0.92	10.7	10.8	0.36	0.30	0.63	0.57	31	36

果径指数：横径/縦径 糖度：屈折糖度計の測定値 酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値
 硬度：果実硬度計による測定値 糖酸比：糖度/酸度
 平均：3地区の平均、平年：1983～2009の平均(但し硬度は2000～2009の平均)

8月～10月の作業

8月下旬から9月いっぱいがせん定及び施肥の適期となる。9月中旬頃には花芽の確認ができるようになる。10月に入ると花芽の発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

せん定

8月下旬から9月中旬に行う。徒長枝あるいは混みすぎた枝を間引いて、日光を樹冠内部に入れる。また上方に徒長した枝は切りつめて、樹高を下げ低樹高化に努める。

施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。開花期延長には、花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることが最も有効である。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>